【報道記事（web）より】

参考資料２

「観光公害」初の実態調査　交通混雑、民泊トラブルも

2018.10.15 11:50 産経WEST ｜できごと

訪日外国人旅行者の急増などに伴い、地域の生活環境が悪化する「観光公害」と呼ばれる現象について、観光庁が初の実態調査に乗り出した。各地で交通混雑や民泊をめぐって発生しているトラブルなどへの対策を強化する。詳しい状況と有効な対策事例を把握し、平穏な住民生活との共存に向け、今年度中に報告をまとめる。

すでに有名観光地がある全国約５０自治体にアンケートを実施、今月内に新たに約１５０自治体への調査を始める。自治体担当者や有識者を交えた勉強会を１１月にも発足させ、実態調査の結果を踏まえて国や自治体への政策提言を行う。目標とする観光立国に向け、「住んでよし、訪れてよしの地域づくり」（観光庁）を進める狙いだ。

京都や鎌倉などでは観光シーズンに電車や路線バスが混雑し、住民の通勤通学に支障が出ているほか、マンションの空き部屋などを有料で提供する民泊物件でも、利用者の騒音やごみ放置などのトラブルが相次いでいる。自治体への調査では、こうした現状や課題を明らかにする方針。

今年１～８月の訪日客は前年同期比１２・６％増の２１３１万人で、通年では初めて３千万人に達する見通しとなっている。

©2018 The Sankei Shimbun All rights reserved.

観光經濟新聞
kankokeizai.com

オーバーツーリズムに対策　観光庁、「持続可能な観光推進本部」設置

2018年7月4日　シェア　ツイート　LINEで送る

観光客の急増が地域の市民生活や自然環境に負の影響を及ぼし、結果として旅行者の満足度も低下させる「オーバーツーリズム」。こうした課題に対応しようと、観光庁は１８日、長官を本部長とする「持続可能な観光推進本部」を設置した。海外を含めた事例研究に着手し、地域による調査なども支援していく。

世界の著名な観光地では、観光客の急増が交通機関の混雑、交通渋滞、マナー違反、違法民泊などを引き起こし、住民が行政に対策を求めるといった問題が起きている。観光庁では、「国内でも一部の観光地で地域住民の生活環境などに影響が出始めている」として同本部を設置した。

外国人観光客の増加や集中に伴う混雑、生活環境の変化、マナー違反などを課題の例に挙げ、事例を把握し、対応策を検討する。本部事務局長は観光庁観光地域振興部長が務める。

観光庁の田村明比古長官は、２０日の会見で「観光客の増加による地域の雰囲気の劣化などは、旅行者の満足度を下げ、生活者の不満を高める。そうした状況をどう解決するか。知恵を働かせ、いろいろな手法を組み合わせ、両者の満足度を落とさないようにする。行政にとっては高度な対応が求められるが、国としても自治体を支援していく」と述べた。

フリー百科事典で調べる　powered by Freebase
自然環境　事例研究　交通渋滞　観光庁

ヒアルロン針が驚きの750本
女優・川原亜矢子も実践。目元のしわ、たるみに一晩で驚きのハリを
quanto.jp

大腸へ、この1粒！500円でお試し
詳しくはこちら　日清ファルマ「ビフィコロン」

関連する記事

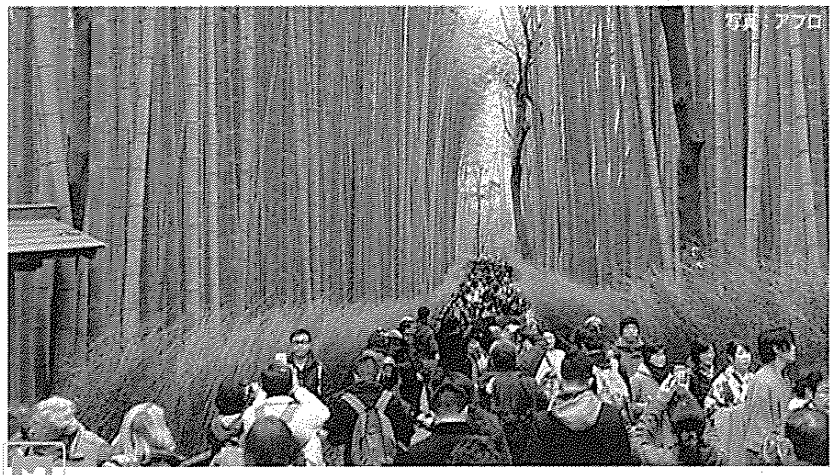
民泊仲介業、取扱物件の２割違法　観光庁、削除を指導
2018年10月24日　NEW!
観光庁は10日、住宅宿泊事業法（民泊新法）の施行日（2018年6月15日）時点で、民泊仲介サイトなどを運営する住宅宿泊仲介業者（以下、仲介業者）が取り扱っていた物件のうち...
続きを読む >

政府、補正予算案に9356億円　災害の復旧、復興に充当
2018年10月23日
政府は15日の臨時閣議で、2018年度第1次補正予算案を決定した。相次いだ自然災害からの復旧、復興の事業費を中心として総額9356億円を計上した。災害関係では、西日本...
続きを読む >

外国人就労拡大、新たな在留資格創設へ　「特定技能」対象に宿泊業検討
2018年10月22日
政府は、外国人の受け入れ・共生に関する関係閣僚会議」が12日に開かれ、外国人材の受け入れ拡大に向けた新たな在留資格「特定技能」の創設を盛り込んだ入管難民法の改正案の骨子を決定した。

<目の下、たるん>に効く／男性にも爆売中
北の快適工房
大阪府の自宅価値が高騰中で売り時！
SHIROGANE
Ads by Yahoo! JAPAN

| 番組をみつける | ウェブで視聴 | 知る学ぶ | 報道・スポーツ | …もっと |
地域：京都 NHK 全体から検索
| 受信料の窓口 | サイトマップ
NHK NEWS WEB 2018年（平成30年）10月31日 水曜日 ニュースを検索 検索 文字サイズ 小 中 大
ニュース 動画 News Up 特集 スペシャルコンテンツ NEWS WEB EASY
新着 WEB特集 ビジネス特集
「徴用工」判決 TPP 外国人材 米中間選挙 プロ野球 IT・ネット 米中貿易摩擦 注目ワード一覧を見る
JUST IN
日経平均株価 一時400円超える値上がり 10月31日 14時08分


写真：アフロ

WEB特集

忍び寄るオーバーツーリズム 日本も危機に？

2018年10月17日 16時45分

旅好きの皆さん！「オーバーツーリズム」という言葉をご存じですか？ 今、世界の有名観光地の多くがこの問題に直面しています。そもそも、観光地は、お客さんに１人でも多く来てもらえればうれしいはず。でも、もし期待よりもはるかに大勢の観光客が押し寄せてきたらどうなるでしょうか…。増えすぎる観光客でさまざまな弊害が起きる事態。それが「オーバーツーリズム」です。（国際放送局記者 望月麻美）

急浮上してきた問題

この「オーバーツーリズム」、２年ほど前から世界で使われ始めた造語ですが、今や世界の観光を語るうえで、業界でも学術界でも欠かせない言葉になっています。

観光地に人があふれると、まず、街の混雑、交通渋滞、夜間の騒音、ゴミ問題、トイレ問題、環境破壊…さまざまな問題が起き、地元の人たちの日常生活に大きな影響を与えます。

さらに、こうした問題の発生で、観光地が魅力そのものを失ってしまうこともあります。オーバーツーリズムはこうした状態の総称と言えます。

全国の天気 地震・津波情報
お住まいの地域の避難・災害情報はこちら
気象 データマップ
LIVE 北海道 厚真町ライブ
鉄道運行情報
ソーシャルランキング
この2時間のツイートが多い記事です
1 去年政界を引退した谷垣氏 首相に体調の回復を報告
2 チケットの不正転売禁止 法案提出へ 五輪・パラ見据え
3 羽田空港 日本人の出国審査でも顔認証ゲートの運用開始
4 「徴用工」訴訟 新日鉄住金に損害賠償命じる判決 韓国最高裁
5 明治初頭に創設 警視庁の歴史を紹介する展示会
もっと見る

世界では深刻な事態も

このオーバーツーリズム、世界各地で深刻な事態を生み出しています。

人であふれるベネチア中心部

イタリアのベネチアでは、増えすぎた観光客に地元住民が「激怒」。怒りの矛先は、一度に大量の観光客を運び込む大型豪華客船に向かい、港に近づく船の周辺をボートで取り囲み「ベネチアに来るな」と海上デモを展開するまでになりました。

これを受けて政府も、観光船のルート変更を決めたほか、ピーク時には路上にもゲートを設置、地元住民を優先して通行させる措置を取らざるをえませんでした。

オランダのアムステルダムでは、去年、街の中心部から名物が消えました。一度に10人前後の人たちがビール片手にペダルをこいで進む観光用の乗り物「ビアバイク」で知られる観光客が増える中、交通渋滞や酔っ払って騒ぐなどマナーの悪化が頻発。とうとう裁判所も、「無秩序な振る舞いはまかりならん」と、営業禁止にゴーサインを出しました。

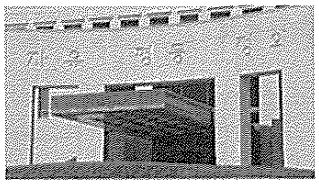
フィリピンのボラカイ島は、環境破壊が深刻化。観光客激増によるゴミや排水の汚染で海の水質が悪化したとして、政府はことし４月、観光客の立ち入り禁止措置を取りました。

島に向かう船乗り場「観光客は禁止」

改善が見られたとして10月、一部立ち入りを認めることになりましたが、私たちの取材に応じたフィリピン観光相は、観光による発展と環境保全の両立がいかに難しいかを切々と語っていたのが印象的でした。

アクセスランキング

この24時間に多く読まれている記事です

1 
「徴用工」訴訟 新日鉄住金に損害賠償命じる判決 韓国最高裁

2
外相 駐日韓国大使を外務省に呼び批判 適切な対応を要請

3
パートさんが姿消す季節…

4
「ついやってみたくなる」手の"消毒装置"が登場

5
ハロウィーンで痴漢 女性「許せない」怒りの声

もっと見る

日本では？

いずれの観光地も「増えすぎた観光客」によって、その地域の持つ本来の良さを失ってしまっていることが分かります。

そして、日本にもこの「オーバーツーリズム」、じわじわと忍び寄っています。日本を代表する観光地、京都を取材してそのことを痛感しました。

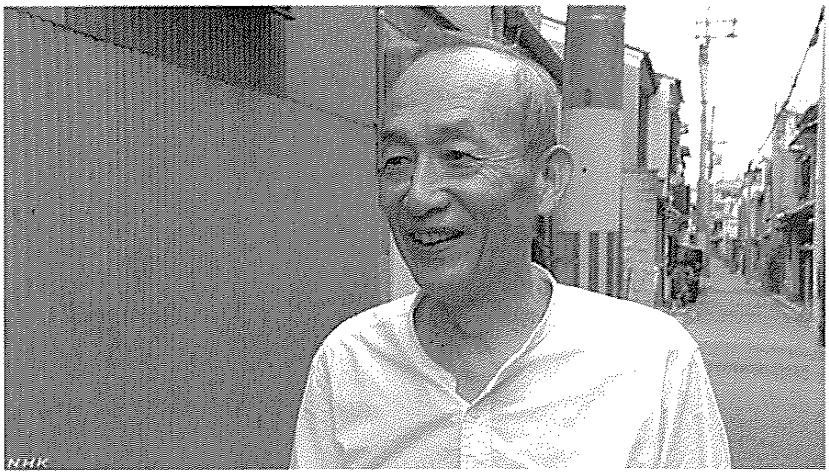
バスに乗れない京都の住民

国内外から年間5000万人以上が訪れる京都。私たちは９月中旬の連休に、まず世界遺産の清水寺近くの大通りに向かいました。

そこには、観光客によるバス待ちの長い列。京都のあちこちで、もうすっかりおなじみの風景になってしまったそうです。

バスを待っていた京都在住の女性は「すごく混んで乗れないときもありますし、普通でも１、２台は待たないと乗れません。秋の紅葉シーズンはこれに渋滞が重なってバスが動かなくなります」と諦め顔。

また男性住民は「この辺りは観光で食べてますから、観光客が来ないほうが良いとは言えませんが、いろいろ弊害も出ています」と複雑な心境をのぞかせました。



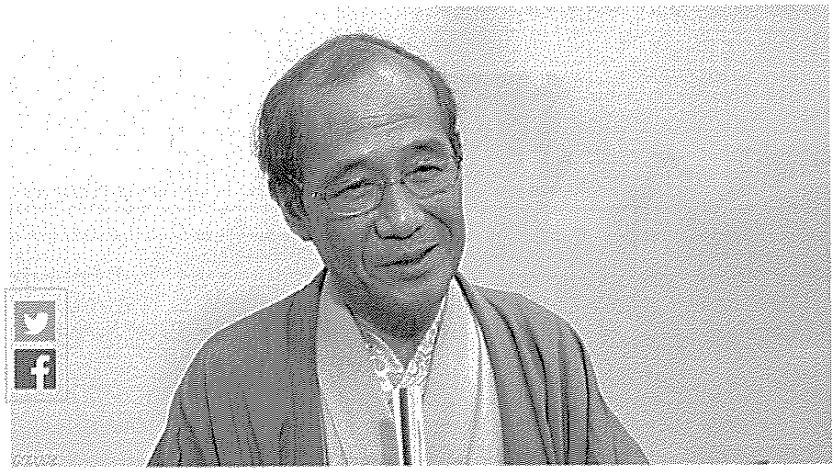
また近くの住宅地で取材した別の女性住民は民泊の増加をあげ、「この辺りは住宅密集地ですが、民泊が増えて、夜中すぎても騒がしくなりました」と戸惑った様子でした。

私は2008年まで奈良放送局に赴任していて、ここ京都にもよく足を運びましたが、確かに10年前と比べ、今の外国人観光客の増加ぶりには目を見張ります。それだけ、地元住民の方々には、切実な問題が迫っていると感じました。

京都は「３つの分散化」で対応

京都は、日本がオーバーツーリズムの問題に取り組むモデルケースになる。そう感じた私は、門川大作京都市長を取材しました。

市長は９月、東京で開かれた観光関連の国際的な展示会に出席、オーバーツーリズムに対する市の取り組みを紹介しています。



市長の取り組みの鍵は「分散」です。やって来る観光客の量を「制限」するのではなく、その量を「散らばらせる」ことで、混雑や渋滞などの問題を解消しようというものです。

門川市長は「混んでる時間に、混んでる場所に行ったら、混んでいるのは当たり前。これをどう分散させるかが勝負」と語ります。

分散その１ 時間の分散 ～朝観光の推進～

ことし、京都を代表する世界遺産 二条城は、夏季、オープン時間を、通常よりおよそ１時間早い８時に設定、観光客の分散を図りました。

８時の開城とともに訪れたアメリカから来たカップルは、「混んでなくて良いです。朝早くに来られてよかったです」と満足そうでした。

また二条城では、オープンをただ早くしただけではなく、城内の「香雲亭」を特別公開、そこで予約制の朝食を提供しました。連日満席の盛況ぶりで、「朝観光」は成果を上げていたようです。

分散その２ 場所の分散 ～新たな魅力開拓～

京都市南部の伏見区は伏見稲荷大社が混雑スポット。つまりそこ以外は比較的すいていて、観光客をどう呼び込むかが課題だったため、混雑が激しい場所から観光客を「分散」させようというのです。

私が取材した地元の商店街や観光業者らの組合が考え出したのは、まだ認知度の低い「酒どころ伏見」をアピールするツアー。酒蔵の見学と利き酒体験がセットになっています。人気も上々とのことで、取材した日には、アメリカやノルウェーなどから12人が参加していました。

イスラエル人の男性は「市の中心部とは一味違った体験でした」。また、イギリス人女性は「すいていて良いです。また来たいです」と、「人混みのない京都」を堪能していました。

分散その３ 季節の分散 ～桜と紅葉以外も楽しんで～

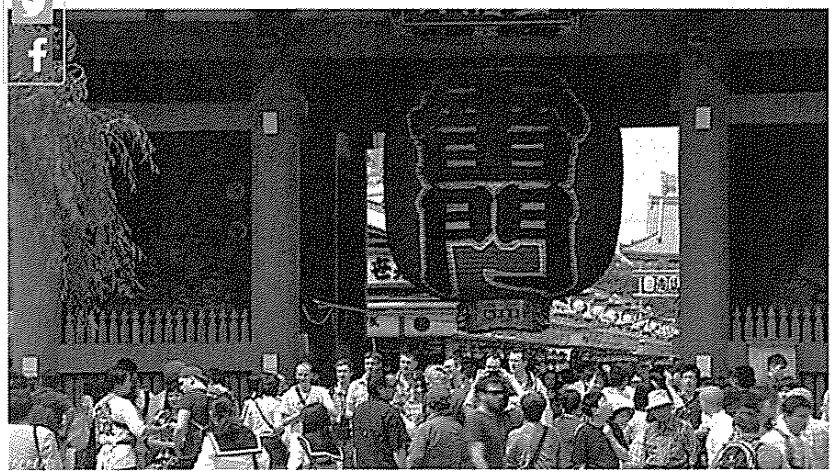
京都は桜の春、紅葉の秋が混雑のピークです。このため、この２つのピーク以外の季節に観光客を呼び込めないかと生まれたアイデアが、「青もみじ」です。

要するに初夏の若々しい青葉のもみじを取り上げ、「美しいのは春と秋だけではありませんよ」とアピールしているのです。

京都市は市内の寺社とも連携し、ＳＮＳによる写真の拡散につながるはたらきかけを積極的に行い、今やネットで「京都・青もみじ」と検索すれば、インスタ映えしそうな鮮やかな緑の風景がずらりと並びます。認知度も徐々に上がってきているということです。

日本の未来とオーバーツーリズム

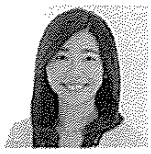
今、日本は、文字どおり国を挙げてインバウンド（訪日外国人旅行）の増加を狙っています。東京オリンピック・パラリンピックの2020年には、外国人旅行者を今より1000万人以上多い、4000万人に増やすことも目標としています。



観光客が増えれば当然、地域の経済効果は大いに期待できるでしょう。しかし、それはとりもなおさず、日本各地の観光地が今後、程度の差こそあれ、オーバーツーリズムの問題に直面する危険性が増すことも意味しています。

私が取材した国連世界観光機関のポロリカシュヴィリ事務局長は「世界の観光客は、ここ５年の間、毎年３％から４％の割合で伸びている」と語り、格安航空会社の進出や途上国の経済発展が、世界の「旅行ブーム」に拍車をかけている現状を指摘し、「持続可能な観光の発展」が国際社会にとって急務であることを強調していました。

国連は2017年を「持続可能な観光国際年」と定め、各国で会合を開いて問題の解決策を議論しています。そして、国連世界観光機関は先月末、提言書をまとめ、11項目の解決策を提示しました。閑散期に、観光客をひきつけるイベントを作るなど、やはり、時間や場所の「分散化」、観光関連の仕事を増やすなど「地元にメリットを感じてもらう」、混雑時のう回路などインフラを整える「まちづくりの改善」などを挙げています。
観光は地域や国の発展には欠かせない重要な要素です。観光と地域の共生のためには、なすべきことが多くあります。そして、旅を愛するひとりとして、地元の方の生活や文化を尊重する、環境や文化財を守るためにできることをもっとする、穴場のスポットを積極的に探してみるなど、訪れる観光客の側にもできることが多くあるのではと感じています。



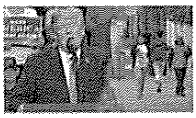
国際放送局記者
望月 麻美

特集一覧を見る

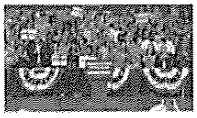
シェアする ?

このほかの特集記事

卓球トップリーグ誕生！ 世界の頂点に立てる日本人選手を 10月30日



ヒスパニックに"乗っ取られた"白人の町から 10月29日

地下鉄で高濃度のＰＭ２．５ なぜ？ 10月26日

炎と優しさ 仙谷の来た道 10月25日